

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	5-1-1		事業名	不登校対策の推進
担当	教育委員会学校教育指導担当課 和田 悦明 211-3861			
全体計画（当初）				
事業内容	<p>・心理的な要因で不登校になっている児童生徒の学校復帰を支援するために、4つの相談指導学級を設置し、それぞれ、教員と数名の嘱託職員（退職教員）を設置し、相談活動や教科指導の他に体験活動等を行う。</p> <p>・スクーリング・サポート・ネットワーク整備事業（SSN）を受託し、関係機関との連携を図りながら、不登校児童生徒の早期発見・早期対応、一層きめ細かな支援を行う。</p> <p>・精神科医師や臨床心理士を学校に派遣し、講演等で不登校に関する教員指導の充実を図っていく。</p> <p>・臨床心理に関して専門的な知識及び経験を有する者をスクールカウンセラーとして学校に配置し、学校における不登校や問題行動の発生等、生徒指導上の課題に対応していくための教育相談体制の充実を図る。</p>		＜年度別の事業内容＞	
			<p>平成16年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーを中学校49校、高等学校8校に配置 ・心の教室相談員を中学校48校に配置 ・不登校相談指導学級の設置 <p>平成17年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スクールカウンセラー」を中学校98校、高等学校8校に配置 ・不登校相談指導学級の設置 <p>平成18年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「スクールカウンセラー」を中学校98校、高等学校8校に配置 ・不登校相談指導学級の設置 	
事業内容（量・場所・規模等）	平成16年度事業内容（決算）		平成17年度事業内容（決算）	
	<p>・不登校児童生徒数の学校復帰への対策としてこれまで設置されていた澄川相談指導学級・新琴似相談指導学級・伏見相談指導学級に加え、平成16年4月、小中学生を対象とした青葉相談指導学級を設置している。</p> <p>・文部科学省の委嘱事業であるスクーリング・サポート・ネットワーク整備事業（SSN）を受託し、関係機関との連携を図りながら、不登校児童生徒及び保護者、学校への効果的な支援の在り方について、実践的な研究を行った。</p> <p>・精神科医師や臨床心理士を学校に派遣し、講演等で不登校に関する指導の充実を図った。（年間50回派遣）</p> <p>・スクールカウンセラーを中学校49校に配置し、スクールカウンセラーがいない中学校48校については「心の教室相談員」を配置した。高等学校については、スクールカウンセラー高等学校派遣事業の中で、全高等学校8校にスクールカウンセラーを配置した。</p>		<p>・平成16年度に引き続き、文部科学省の委嘱事業であるスクーリング・サポート・ネットワーク整備事業（SSN）を受託し、関係機関との連携を図りながら、不登校児童生徒及び保護者、学校への効果的な支援の在り方について、実践的な研究を行った。</p> <p>・精神科医師や臨床心理士を学校に派遣し、講演等で不登校に関する指導の充実を図った。（年間35回派遣）</p> <p>・スクールカウンセラー活用事業の中で、スクールカウンセラーを中学校98校と高等学校8校に配置した（平成16年度まで「心の教室相談員」を配置されていた学校には、スクールカウンセラーに準ずるものを配置）。</p> <p>・フリースクール等の民間施設との連携により、不登校児童生徒への支援を推進した。</p>	
事業内容（量・場所・規模等）	平成18年度事業内容（決算）		評価（成果）	
	<p>・平成17年度に引き続き、文部科学省の委嘱事業であるスクーリング・サポート・ネットワーク整備事業（SSN）を受託し、関係機関との連携を図りながら、不登校児童生徒及び保護者、学校への効果的な支援の在り方について、実践的な研究を行った。</p> <p>・精神科医師や臨床心理士を学校に派遣し、講演等で不登校に関する指導の充実を図った。（年間20回派遣）</p> <p>・スクールカウンセラー活用事業の中で、スクールカウンセラーを中学校98校と高等学校8校に配置し、スクールカウンセラーに準ずる者の配置を少なくした。（H17:42校 H18:16校）</p> <p>・フリースクール等の民間施設との連携により、不登校児童生徒への支援を推進した。</p> <p>実態を踏まえた連携のあり方の検討（訪問施設をH17:6施設 H18:7施設）</p> <p>フリースクール等との懇談会の充実（懇談会の参加者に相談指導学級の教員や教育センターの指導主事を加えた）</p>		<p>・スクールカウンセラーを中学校98校と高等学校8校に配置したことにより、中学校、高等学校の教育相談体制が充実し、不登校生徒への支援が進んだ。</p> <p>・フリースクール等の民間施設との懇談会や訪問などにより連携を深めることができ、それぞれの取組について理解が深まり、お互いの役割を確認することができた。</p>	
課題				
<p>・学校の取組は、進んできているが、不登校児童生徒数は、依然として減少せず、数の上での変化が見られない。</p>				
19年度以降の方向性・事業の予定				
<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの事業内容の充実を図る。 ・スクールカウンセラーの効果的な活用の在り方について、再検討する。 ・全市立小学校にスクールカウンセラーを月2時間派遣する。 ・スパーパーバイザーを2名から5名に増員する。 ・相談指導学級の運用について、再検討する。 ・フリースクール等の民間施設との連携を推進するための、より具体的な方策を検討する。 				

